

50周年記念リレー縦走スタート 7月11日(土)~12日(日)

第1弾 柵池 - 白馬三山縦走 - 鍾温泉経由猿倉へ 2名で達成

第2弾 唐松岳 - 五竜岳縦走 に多数の参加を!!

事務局通信(6/26)でお知らせした通り、来る7月25日(土)~26日(日)に50周年記念、北ア・リレー縦走、第2弾(第3行程)の唐松岳~五竜岳縦走を行います。

縦走隊は25日、八方尾根~唐松岳登頂後、縦走して五竜岳 CP 場で幕営。翌26日、五竜岳に登頂して遠見尾根から下山します。17日現在の参加予定者は5名。また唐松小屋に泊まって翌朝下山(3名)、26日遠見尾根(大遠見)ピストン(1名)等、併せて8名が参加表明しています。

これに先立つ7月11日(土)~12日(日)、鈴木さん、横田さんの2名によって、第1弾(第1行程)の柵池 - 白馬大池 - 白馬三山縦走が達成されました。これにより、北ア・リレー縦走はいよいよ正念場へと向かい、本格化して行きます。

第2弾までは残り1週間、縦走に加われない場合は日帰り参加もOKです。

1人でも2人でも多くの参加者を以て、リレー縦走をみんなのものにして行くではありませんか!!

第3弾 天狗の頭 - 不帰の嶮 - 唐松岳 8月中~下旬 (日時未定)

第4弾 夏山合宿 新穂高 - 双六岳 - 槍ヶ岳 8月28日~30日

恒例の夏山合宿もリレー縦走の一環に組み込まれ、またその前に白馬三山~唐松岳間の縦走が計画される等、リレー縦走は第3弾、第4弾へと引き継がれて行きます。

どの行程にも多数の参加者あることが理想ですが、コースによっては少数で繋ぐ場合もあります。そう言うケースも含めて、第3弾の白馬三山~唐松岳間縦走のチャレンジャーや、夏山合宿への参加者が求められており、会員のみなさんの奮起が期待されます。

第4回(7月)拡大役員会報告

7月14日(火)第4回拡大役員会が行われ、9名が参加して当面の活動、特にリレー縦走・夏山合宿について話し合いを行いました。

また、会計担当の宮島さんから『会計についての問題提起』があり、時間をかけて討議し、改善して行くことが確認されました。

1: 第3回例会(6月23日)以後の山行・行事について

6月27日(土)~28日(日) 全国遭難対策研究集会~神戸:鈴木

~150名以上の参加があり多発する事故の事例報告が相次いだ

7月2日(木) 燕岳:内藤 他1名

7月2日(木)~3日(金) 船窪岳:白井+1(白井母)

7月4日(土) 山の歌を歌う会&ニレカピーク報告会 於・桑原さん宅

谷口 横田 桑原 宮島 尾形 北條 長島 鶴川(栄子) 佐久、池田 桜井

7月5日(日) 真木集落跡を訪ねる~5名

7月6日(月) 風吹大池:桑原 井川(夫妻) 他

7月7日(火)~8日(水) 甲斐駒ヶ岳(ツアー):細田

7月8日(水) 雌阿寒岳:谷口 黒岳:谷口(夫妻) 石井(夫妻) ※2世帯で北海道へ

7月11日(土) 十勝岳:谷口

7月11日(土)~12日(日) リレー縦走第1弾 柵池 - 白馬三山:鈴木 横田

7月15日(水) 爺ヶ岳:鈴木 古畑(夫妻) 細田

2: 北ア・リレー縦走について ~ 左ページ参照

3: 会計に関する問題点~会計担当・宮島さんからの問題提起

1: 会費の納入方法・納入時期に関して

規約では3ヶ月単位での納入可となっており、また納入時期が明確にされていないため、納入状況がバラバラで、前年度の納入が終わっていない場合もある。規約改正を含め、原則総会時に納入が完結するよう改めるべきではないか。

2: 遭対基金の1口分が会費から差し引いて徴収される等、基金が一般会計の中で扱われており煩瑣で分かりにくい。基金の会計は切り離すべきではないか。

3: 会の通帳がなく現金で保管されている。多額の現金を所持するのは不適切であり、山の会名義の預金通帳によって管理すべきではないか。

4: 出納帳と会費納入状況のエクセル化による可視化、効率化(完了)。

5: 領収書の提出の仕方~経費を支払った際の受領(領収)書の統一化。

6: 経費の支払い請求の際の(支出項目の)分類、請求の仕方について。

飲んで食べて歌った山の歌

桑原 巖

真木集落を訪う

宮島 順一

山の歌とバーベキュー&ニレカピーク報告会 in 岩岳



7月4日、白馬岩岳の桑原宅にて8名の会員と佐久山の会から歌の先生・桜井さん、ニレカ登山の説明役・池田さんの参加で『山の歌を歌う会』が開かれた。特に桜井さんからは外国産のビールやら軽井沢産の地ビールなど大きなクーラーボックスいっぱいのは缶ビールの差し入れがあり、当夜のアルコールは殆どこれで間に合った。感謝感謝である。

焼き肉の量はやや少なめの感じでしたが、根曲り竹の飛び入りもあり、桜井さん差し入れビールで外が暗くなるまで話が弾み盛り上がった。

その後は室内に入り、まずはじめにニレカピーク登頂のスライドの映写がありヒマラヤ登山のベテラン池田さんの豊富な経験に基づく解説でヒマラヤ登山の状況がよく感じ取れた。

続いて桜井さんの指導で山の歌の合唱となった。まず最初に富山労山・赤星さん作詞作曲による「山は心のふるさと」の歌唱指導に始まり、桜井さんの巧みなリードで普段なかなか歌うことのない山の歌が次々と飛び出し、夜遅くまで心おきなく歌うことができた。次回はもっと大勢の参加で開きたいものだ。

7月4日、桑原さん宅で『山の歌を歌う会』が盛大に開催された翌朝、5人で登山口に向かう。南小谷駅南の踏切を越え小学校跡地を左に見て以前の記憶を蘇らせながら進むと、以前とは違い林道が先に延びていた。

今回で真木集落に向かうのは3回目。2回目は森田さんと早春の真木集落を訪ねたことがあった。帰り道、ふきぼこ（チャンメロ）がたくさんあり採りたい衝動にかられたが、森田さんに共働学舎の方が採るかもしれないからと言われたことを思い出す。

さて、記憶というものは曖昧で、うっかり入り口を越え林道を進んでしまい、引き返すと立派な看板があってホットする。記憶より立派な山道を進むと石仏や、合掌に組まれた丸太小屋がありトタン葺きの小屋が見え懐かしく思い出された。

先に進むとやっとなりにたどり着く。確かこの付近でたくさんのトチの実を秋拾ったことを思い出した。下ると川があり橋を渡ってまた小さい峠のような所を越え、また橋を渡って切り切ったところが真木集落である。その真木集落がやっと見えたときは嬉しくなった。

集落入り口は猪除けの電気柵があり、跨いでいくことはできるが番犬が吠えるので柵の手前に腰を下ろして皆で昼食とする。

帰りは運搬車（クローラー式）とすれ違い、荷物を見るとプロパンガスや燃料が積まれていた。山道脇にたくさん生えている水菜（ミズ）を少々いただき帰宅した。

共働学舎を映画にした『アラヤシキの住人たち』を見る機会を逸したが、次に機会があれば是非観てみたい。

